



## 巻頭言

### 『国語の答え』って、いくつもあんの？

中学校国語科研究部会会長 河口洋二郎

四月早々、全国学力・学習状況調査が実施されました。抽出校として本校も参加しました。終了後、廊下で出会った三年生数人に感想を聞きました。様々な反応が返ってくる中、仲間の顔を見てこんな声が。「国語ってさあ、答えがいくつもあるもんねえ。」...

三十年近く前、三年生教材『俳句の世界』の授業（二章構成）でのこと。鑑賞の仕方を学ぶ第一章の中に「ひつぱれる糸まつすぐや甲虫」という夏の句がありました。「糸の一方を柱か何かに、もう一端をツノに結わえられた甲虫。その糸がピーンと

張っているのを見ると、束縛から逃れようとすると小さな生き物がもつ力強さが伝わってくる。」といった内容の鑑賞文が紹介されていきました。

（なるほどなあ。）という反応が大半を占める中、一人の女生徒が発言しました。「わたしは力強さなどは感じません。自由がないこの状況から永久に逃れることができないで、いつしか力尽き、命絶えてしまうしかないはかなさ・悲しさを感じます。」と。この発言に（うーん、



わかる、わかる）という声が即座に上がりました。切れ字の効果とともに『まつすぐや』に注目することで「こんなとらえ方もできるんだ。」「こんなとらえ方もしていいんだ。」という学習につながったことを鮮明に覚えています。

解説し、この鑑賞文を書かれた方は自身、著名な俳人です。しかし、この女生徒の見方・考え方も納得がいくものです。国語の答えは、数そのものが問題ではありません。どんな答えでも許されるわけではありません。言葉や表現を手がかりに、いかに確に、深くかつ豊かにとらえるかが肝心であり、国語ならではの魅力に他なりません。

先の生徒たちにこの話をしました。笑顔が返ってきました。さて、平成二十六年度の可茂大会に向け、大会準備委員長を井上光彦校長先生（可茂地区担当副会長）に、授業を可児市立中部中学校にお引き受けいただき

きました。今年度は研究実践のための組織・分担・役割など具体的な動きをつくっていくことが急務です。学習指導要領全面实施を踏まえた、日々の授業実践は当然です。また、今秋の全日中熊本大会（伝統的な言語文化等部会）では本県発表者として内田誠司・中島芽衣子両先生に、井上校長先生には助言者としてお出かけいただきます。

最後になりましたが、引き続き会長職を仰せつかりました。役員・部員の皆様、そして、代議員・会員の先生方、たいへんお世話になります。「学び合い、高まり合う県中国研」に向かつてまた一歩踏み出しましょう。

中国研のホームページ  
「Webぎふこくご」

をぜひご覧ください。

<http://kokugo.chu.jp/>

ぎふこくご

検索

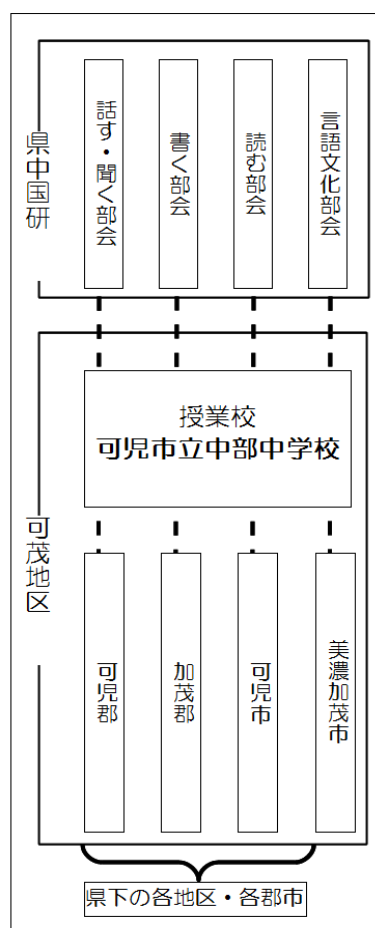
◎代議員の先生方は、郡市の研究会の資料を情報部あてお送りください。

# 今年度の運営に関わって

中学校国語科研究部会 主務 永井 伸幸

新しい教科書を用いての授業が始まりました。「教材を教えるのではなく、教材を通して何を教えるのか、どういった力をつけるのか明確にしなければならぬ。」といったことを先輩方からも教えて頂きました。しかし、その通りだと思います。しかし、まず自分はその教材に魅力を感じたり、作品の良さを語れたりするようになりたいと思っていました。そんな思いの中、「つながりを読む『星の花が降るころに』(一

年)」の授業を参観する機会を得ました。前の単元を含めて指導計画を考案し、先駆けて行った実践でした。自分が実際に行った授業ではないので恥ずかしいことですが、その指導計画、指導案、そして何より授業を通して、この教材の魅力を感じました。そして、自分が行う時には、この言葉に着目させて登場人物の思いを考えさせたい、この言葉とこの言葉を比較させて登場人物の気持ちの変化を読み取ら



年 度	可茂大会に関わる見通し
24年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可茂大会研究主題決定</li> <li>・可茂地区準備委員会設置</li> <li>・授業校及び全体会(分科会)会場決定</li> <li>・可茂地区郡市における研究領域決定(実践)</li> <li>・(仮)資料集作成の検討, 決定</li> </ul>
25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者, 実践発表者等の検討</li> <li>・可茂地区での実践の継続(研究部との連携)</li> <li>・県内郡市における研究領域の決定</li> <li>・運営に関わる役割の検討(可茂地区・県下各郡市)</li> <li>・(仮)資料集作成</li> </ul>
26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日時, 会場最終決定→県内への伝達</li> <li>・授業者・実践発表者の決定</li> <li>・研究部との連携を図った授業研</li> <li>・運営に関わる最終確認</li> </ul>

せてみたいといった思いを巡らしたりもしました。新しい教材に限らず、これまで行ってきた教材についても、授業のあり方を見直すことが必要な場合もあります。こうした今だからこそ、中国研が取り組むべきことがある

だろうと考えています。昨年度は、各郡市の代議員の先生、教科研究会の授業者の先生のご協力を得て、教研等で行った授業の指導案を掲載した研究実践収録を作成することができました。ご協力ありがとうございました。こうした各郡市での実践、新しい教科書を用いた新たな試みなど、より多くの実践を交流するなどし、県内の国語科部員の指導力向上の一助となる中国研でありたいと考えています。こうしたことに関わって、先生方に四つのことをお伝えします。

## 一 可茂大会に向けて

平成二十六年に中国語可茂大会を行います。会場校は可児市立中部中学校に決まりました。可茂地区各郡市と県内各郡市、県中国研と連携を図り、生徒にとって、そして

県内の国語科部員にとって意義のある大会にしていきたいと考えています。また、前掲の図のような組織のイメージや大まかな見通しを考えています。例えば、中学校で言えば、加茂郡は十校、可児郡は三校といった違いもありますので、調整を図ったり、可茂地区の先生方が具体的に何を行っていくのかを提案したりすることが必要だと考えています。その際、特に可茂地区の先生方にはお願いすることもあるかと思いますが、宜しくお願いいたします。

## 二 夏季研修会について

昨年度の「夏季研修会」は、杉本直美先生（国立教育政策研究所学力調査官）のご講演、研究部を主体とした実践交流・二期以降に行う授業の事前研を行いました。多くの方に参加していただき、感謝しています。ありがとうございました。

今年度も八月十七日（金）に夏季研修会を実施します。

講師の先生は、椋山女学園中・高等学校長 河野 庸介先生です。九時半までに、岐阜市市橋コミュニティセンターにお越し下さい。（詳細については、本紙別頁をご覧ください。また、学校間開放型メールにもお知らせしています。）

また、この秋に全日本中学校国語教育研究協議会熊本大会で、岐阜県の実践を発表して頂く、中島芽衣子先生（日吉中）、内田誠司先生（真正中）から当日の発表内容の概要についても説明して頂きます。

## 三 実践記録の募集について

昨年度も数多くの「実践記録ぎふこくご賞」への応募ありがとうございました。今年度も同様に実践記録を募集します。様式、枚数等については特に指定していません。ま

た、各都市等に提出されたコピーでも構いません。来年一月二十一日（月）を締め切りとしますので、各地区の提出先までご連絡下さい。（作品の受け取り方を相談させていただきます。）

- 岐阜地区 曾我部雄志（藍川北中）
- 西濃地区 富田泰仁（星和中）
- 美濃地区 永井伸幸（大和中）
- 可茂地区 福井美穂子（美濃加茂・東中）
- 東濃地区 加知昌彦（北陵中）
- 飛騨地区 中島英人（古川中）

## 四 「Webぎふこくご」について

みなさんは、「webぎふこくご」についてご存知でしょうか。代議員会ではお伝えしています。中国研には情報部が作成しているホームページがあります。中国研は県の組織ですが、なかなか情報が行き届かなかったり、実践の紹介や交流を図ったりできないのが実情です。そうしたことを少しでも解消する意味でも是非「ぎふこくご」と検索して頂けたらと思います。授業で活用できる学習プリン

ト、生徒向けコンテンツ等が掲載されています。

## WEBぎふこくご 八月三日現在の新着コンテンツ

### 先生向け

- ・二十四年度各都市の研究計画
- ・同各研究部の活動計画
- ・新常用漢字のプレゼンテーション
- ・標準的な原稿用紙の使い方(PDF)
- ・部首別漢字一覧表(PDF・Excel)
- ・「ぎふこくご」復刻版  
(昭和三十八年発行第五号まで)

### 生徒向け

- ・慣用句に関するスピーチ原稿
- ・「モアイは語る」学習のまとめ
- ・安宅の関訪問記



岐阜県中国研究会員の皆様へ

研究総括 富田泰仁

平成二十四年度研究主題

明日に生きる言語能力の育成

↳ 言語能力の高まりを実感する  
言語活動の充実を通して

1 今年度の研究主題

東濃大会を含む、平成二十三年度までは、次の研究主題でした。

明日に生きる

言語能力の育成

↳ 「確かな言葉の力」と「豊かな言語感覚」を鍛え、磨きあう国語教育の創造

国語において「明日に生きる

言語能力」を育成することが、

生徒の生きる力をはぐくむこと

につながると思います。言語能

力を伸ばす言語活動を充実させ

ることで、生徒は国語に対する

認識を深め、国語を尊重する態

度を育むことができます。

そこで言語能力を、「三領域」

と「伝統的な言語文化と国語の

特質に関する事項」に関わって、

こんな力であると捉えています。

話す・聞く

↓目的や場面に応じて話す

力・聞く力・話し合う力

書く

↓相手や目的に応じて的確

に書く力

読む

↓主体的かつ的確に読む力

言語

↓言語文化に親しみ、豊かに

運用できる力

(各部会の研究主題より)

そこでこんな仮説が立つかと思えます。

三年間を通してつきたい

言語能力を明確にし、高ま

りが実感できる言語活動の

充実を図っていけば、明日

に生きる言語能力を育成す

ることができる。

前述の主題によって各部の研

究主題が「明日に生きる言語能

力」の具体となり、つながって

いくかと考えます。それぞれの

部会が「明日に生きる言語能力」

として捉えている力を、言語活

動の充実を通して掘り下げてい

るので、研究が成り立つとい

考えです。

この研究主題をもとに、平成

二十四年度の各都市の研究主題

決定していただきました。各郡

市で授業研が行われています。

研究内容としては次のように

考えています。

指導計画の工夫として

(1) 「明日に生きる言語能力」

の具体化一覧表を位置づ

けた年間(単元)指導計

画の作成

(2) 中学校三年間で身につけ

させたい言語能力を網羅

した「明日に生きる言語

能力」の具体化一覧表の

改訂

指導方法の工夫として

(1) 領域ごとに「明日に生き

る言語能力」を意識した

言語活動の工夫

(2) 岐阜県ならではの地域教

材・新しい単元の指導の

開発

(3) 指導方法の明確な指導案

の書き方の提案

2 今年度研究部として行い

たいこと

前述の提案を踏まえ、平成二

十四年度の研究の在り方を次の

ように考えています。



- ① 今年度は、実践集録として、新しい教科書の単元を中心とした各領域の指導案、実践をまとめる。
- ② 中国研及び各部会の研究主題を県内各地区の研究主題として意識していただき、実践を行う。
- ③ 各代議員の先生方に、研究部員としても参加してもらう。
- ④ 指導案のモデルを代議員を通して広める。
- ⑤ 地域教材及び新しい単元でぜひ実践をする。
- ⑥ 各部会には、副部長を置く。
- ⑦ 各部会で授業研究会を行う。(十、十一月)
- ⑧ 年度末の各部会の発表はその授業研の発表をもって行う。
- ⑨ できるなら、各部会の部長及び副部長も授業研の授業を行い、そのあとに部員が続いていくような形が望ましい。
- ⑩ 中国研夏季ゼミに、多くの方面に参加していただけるよう、呼びかける。

中国研の役割を考えてみると、次のような点にあります。

県内各地区が本研究主題に即して授業実践に取り組み、岐阜県の中学生の国語の力を高め、国語が好きになるよう、教師の指導力向上をめざして共に高め合うための組織

前述の十の提案は、中国研の活動が広まっていくために何に取り組むべきかという点に立っているものです。研究とは一部の人間だけでトップダウン式に行われるものではなく、テーマはあっても考えるのは教師一人一人に他なりません。

可茂大会に向けての事実上のスタートとなる平成二十四年度は、研究部が県内各地に実践を広め、ご理解いただくために頑張る一年にしたいと考えます。

そのためには代議員の先生方の力が必要であり、若い世代の

先生方にも参加してもらい、可茂地区の先生方が取り組みやすい環境を整えていくことが必要だと思います。よろしくお願

## 県中国研夏季研修会

演題 『国語科授業と言語活動の充実』

講師 椋山女学園中・高等学校校長元国立教育政策研究所学力調査官

河野庸介先生

1 日時 平成24年8月17日(金) 午前9時30分から午前11時40分まで  
(講演会は午前9時30分から午前11時)

2 場所 岐阜市市橋コミュニティーセンター大会議室  
岐阜市市橋6丁目13番25号 TEL 058 - 275 - 3412

3 日程

9:00 受付	9:30 河野庸介先生講演会	11:00 休憩	11:10～11:40 言語文化部会 実践発表
------------	-------------------	-------------	-------------------------------

4 参加の申し込み方法について

各郡市の代議員の先生、又は中国研総務 北陵中学校 (0572-27-6068) 加知昌彦までお申し込み下さい。

平成二十四年度 県中国研代議員名簿（敬称略）

15	関市	竹智 丈裕	小金田中学校	30	大野郡	野首 章吾	白川中学校
14	揖斐郡	瀧瀬 仁基	揖東中学校	29	下呂市	青木 麻由美	馬瀬中学校
13	安八郡	佐藤 善保	登龍中学校	28	飛騨市	中島 英人	古川中学校
12	不破郡	斧 奏	今須中学校	27	高山市	石地 千佳子	東山中学校
11	養老郡	末守 七衣	高田中学校	26	中津川市	梶屋 明広	第一中学校
10	海津市	川端 紀洋	日新中学校	25	恵那市	山田 伊津季	恵那北中学校
9	大垣市	長谷川 圭奈	興文中学校	24	瑞浪市	中島 芽衣子	日吉中学校
8	本巣郡	(辻) 香子	北方中学校	23	土岐市	加納 玲子	西陵中学校
7	羽島郡	永屋 昌克	笠松中学校	22	多治見市	可知 昌彦	北陵中学校
6	本巣市	馬淵 敬	真正中学校	21	可児郡	山口 明美	向陽中学校
5	瑞穂市	豊田 直子	穂積北中学校	20	加茂郡	野々村 琢磨	白川中学校
4	山県市	小森 一孝	高富中学校	19	可児市	濱嶋 雅之	蘇南中学校
3	各務原市	足立 ひとみ	桜丘中学校	18	美濃加茂市	福井 美穂子	東中学校
2	羽島市	小林 みち子	中央中学校	17	郡上市	上村 一貴	八幡中学校
1	岐阜市	水野 寛大	加納中学校	16	美濃市	井上 宏文	美濃中学校
番	郡市名	氏 名	在勤校名	番	郡市名	氏 名	在勤校名

# 平成二十四年度 県中国研本部役員・研究部員名簿

## 【本部役員】

会長 河口洋二郎 岐阜市立長森中学校  
 副会長（岐阜） 稲葉 律夫 岐阜市立精華中学校  
 副会長（西濃） 佐野 恵子 海津市立平田中学校  
 副会長（美濃） 五十川法弘 関市立富野中学校  
 副会長（可茂） 井上 光彦 美濃加茂市富加町  
 中学校組合立双葉中学校  
 副会長（東濃） 足立 篤美 惠那市立惠那東中学校  
 副会長（飛驒） 古川 慎一 高山市立清見中学校  
 評議員 石橋 佳之 神戸町立神戸中学校

## 【事務局】

主務 永井 伸幸 郡上市立大和中学校  
 補佐 曾我部雄志 岐阜市立藍川北中学校  
 会計 今井 則雄 岐阜市立青山中学校  
 総務 加知 昌彦 多治見市立北陵中学校  
 部長 長谷川圭奈 大垣市立興文中学校  
 副部長 西尾 新 土岐市立泉中学校  
 部長 曾我部雄志 岐阜市立藍川北中学校  
 部長 松永健一郎 岐阜大学教育学部附属中学校  
 部長 小島光太郎 岐阜大学教育学部附属中学校  
 部長 宮川 浩司 笠松町立笠松中学校  
 部長 岸 浩道 岐阜市立境川中学校  
 部長 西門 純 岐阜市立加納中学校  
 部長 伊藤 雄樹 岐阜市立加納中学校  
 部長 水野 寛大 岐阜市立加納中学校  
 部長 水野 寛大 岐阜市立加納中学校

## 【研究部】

研究総括 富田 泰仁 大垣市立星和中学校  
 〃 副総括 富山 哲成 岐阜市立長良中学校  
 話す聞く部長 山口 政有 岐阜市立東長良中学校  
 書く部長 井深 誠 岐阜市立島中学校  
 読む部長 上村 光一 岐阜市立東長良中学校  
 言語文化部長 内田 誠司 本巣市立真正中学校

## 話す聞く部員

荒井貴行（日枝中） 渡辺孝充（長良中） 野々村真理子（岩野田中）  
 塚本陽治（陽南中） 加納玲子（西陵中） 梶屋明広（中津川第一中）  
 大西昭裕（川辺中） 太田慎哉（神坂中） 岡庭優希（中津川第二中）  
 野島将也（長良中） 大田朋美（蘇原中） 辻 美里（東長良中）  
 梅田佳宏（中部中） 片山博寿（瑞陵中） 安江友香（上之郷中）

## 書くこと部員

高橋友之（日枝中） 井上宏文（美濃中） 細江隆一（美濃加茂西中）  
 今井則雄（青山中） 河田剛延（長森南中） 丹下侑輝（加子母中）  
 村木彩香（島中） 熊崎裕子（泉中） 竹智文裕（小金田中）

## 読むこと部員

平野栄子（島中） 酒向由美子（陽南中） 小島光太郎（附属中）  
 中島英人（古川中） 山口明美（向陽中） 小島京子（羽島中央中）

## 言語文化部員

深尾 寛（藍川中） 伊藤瞳（南ヶ丘中） 吉永康昭（東長良中）  
 一川宗弘（青山中） 熊崎智文（金山中） 中島芽衣子（日吉中）